

4. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

＜国際食料情報学部食料環境経済学科＞（認定課程 高一種免（地理歴史））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	地理と歴史を中心として、食料経済学・農業経済学・環境経済学を学ぶための基礎を培うとともに、語学やその他の人文科学・社会科学等も学習し、広い教養や視野を養う。また、教職についての理解を深め、教員としての適性を確認する。
	後期	食料経済学・農業経済学・環境経済学を学ぶための方法を身につけると共に、学んできた基礎的事項について再確認する。また、地理や歴史に関する内容を議論することで、より深い知識を身につける。
2 年次	前期	食料経済学・農業経済学・環境経済学に関連する地理や歴史について考察する力をつけるとともに、これまでと同様に幅広く教養や視野を養う。また、教職の基礎を理解し、将来の進路について考える。
	後期	食料経済学・農業経済学・環境経済学についてより広い視野で考える態度を身につける。地歴教員として必要な基礎的な知識を再確認する。
3 年次	前期	これまで学んできたことをさらに発展させ、食料経済学・農業経済学・環境経済学について研究するための研究方法を身につけ、卒業論文のテーマを意識して授業に臨む。また、地歴教員として必要な指導法、高等学校教員として必要な指導法を身につける。
	後期	食料経済学・農業経済学・環境経済学に関連する職業について、インターンシップを通して関心を高め、将来の進路を考える。また、卒業論文で取り組むテーマを決定する。引き続き、地歴教員として必要な指導法を習得するとともに、教育実習に望むための準備を行う。
4 年次	前期	食料経済学・農業経済学・環境経済学に関する卒業論文について、調査・研究を進める。また、教育自習を行い、大学で学んだ知識や得た経験を活かし、地歴教員の仕事について理解を深め、教員としての資質を確認する。
	後期	食料経済学・農業経済学・環境経済学の専門家として、卒業論文を完成させる。その研究を通じて、農業や農村で生じている問題に対する解決力がどれだけ身についたのかを確認し、それを社会でどのように活用するかについて検討を行う。また、高等学校地歴教員として必要な資質がどれだけ形成されたのかの確認を行う。